

令和5年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

令和5年 5月12日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：トマト葉かび病菌 レース 4.9 及び 2.4.9
(学名：*Passalora fulva* (Cooke) U. Braun&Crous)
作物名：トマト

1 発生経過

- (1) 令和4年5月に、県内の施設トマトにおいて葉かび病抵抗性品種「CF桃太郎はるか」(抵抗性遺伝子 *Cf-9*) 及び「マイロック」(抵抗性遺伝子非公開)に葉かび病の発生が確認された。
- (2) 罹病葉から単孢子分離した菌株について、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門にレース検定を依頼したところ、本県では未確認のレース 4.9 及びレース 2.4.9 であることが判明した。
※レース 4.9 は抵抗性遺伝子が *Cf-4*、*Cf-9* の品種を、レース 2.4.9 は抵抗性遺伝子が *Cf-2*、*Cf-4*、*Cf-9* の品種を、それぞれ侵すことができる。
- (3) 県内では、これまでにレース 2.4、レース 2.9 及びレース 2.4.11 の発生が確認されている。なお、国内では平成19年以降、抵抗性品種 (*Cf-9*) を侵すレースの発生が複数地域から報告されている。

2 病徴および発生生態

- (1) 本病は主に葉に発生し、発病葉の表面は一部黄変し(図1)、葉裏に灰黄色から緑褐色のビロード状のかびが密生する(図3)。
- (2) 症状が進展すると、葉裏の菌叢は灰褐色から灰紫色に変化する。病斑は初め下位葉に現れ、しだいに上位葉にひろがる。病勢が激しい場合には葉が枯れ上がる。
- (3) 今回のレースを含め国内で13種類のレースが確認されている(飯田・須志田, 2019)。レースによる病徴に違いはない。なお、本病の症状はすすかび病と酷似しており(図2、4)、肉眼での判別は困難で、顕微鏡による分生子の確認が必要である(図5、6)。

3 防除対策

- (1) 県内で栽培されている抵抗性品種は、抵抗性遺伝子が *Cf-9* のものが多く、今回発生が確認されたレースに罹病性であるため、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、本病の発生に注意する。
- (2) 本病は肥料切れや着果負担等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
- (3) 多湿条件下で発生しやすいので、換気やかん水量等に注意する。
- (4) 発病葉は伝染源となるため、早めに取り除き、ほ場外へ持ち出して適切に処分する。
- (5) 多発してからの防除は困難なので、発病前～発病初期の防除に努め、薬剤散布は葉裏にも十分にかかるように丁寧に行う。なお、薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーションで使用する。



図1 トマト葉かび病の病徴（葉表）



図2 トマトすすかび病の病徴（葉表）



図3 トマト葉かび病の病徴（葉裏）



図4 トマトすすかび病の病徴（葉裏）



図5 トマト葉かび病菌の分生子



図6 トマトすすかび病菌の分生子

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>